平成5年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会
平成6年3月

はじめに

昭和63年の瀬戸大橋開通は、香川県全体の交通事情を一変させたことはご承知のとおりであります。四国自動車道、それに伴うアクセス道路の整備など、数々の道路網が完成し私たちの日常生活は大変便利になりました。

これら自動車道の建設に先立ち、埋蔵文化財発掘調査がなされ、貴重な遺跡の発見が相次ぎましたが、それ以前の開発により、地下に眠っている貴重な遺跡が知らずして破壊されたり、消滅してしまったことは残念でなりません。

幸なことに、丸亀市内においては、四国自動車道関連の埋蔵文化財発掘調査事業によって郡家一里屋遺跡、郡家田代遺跡、郡家大林上遺跡等が発見され、今まで私たち市民が知らなかった先人たちの生活や生産活動をうかがい知ることができたのは、大変有意義であったと存じます。２年前から本市においても文化庁及び県の補助をいただき「丸亀市内遺跡発掘調査事業」を進めておりますが、今後丸亀市内にある遺跡の保存・保護を考えていくうえで、大変意味のある事業といえます。

昨今全国各地で“開発か保存か”この大きな課題を文化財保護行政の上でどう取り組んでいけばよいのか論議されています。

このようなとき本調査事業の結果が、この問題について考え直してみる参考資料となることを期待しております。

平成６年３月

丸亀市教育委員会
教育長　石田　薫

例　　言

1．本書は、丸亀市教育委員会が平成５年度国庫補助事業として実施した、丸亀市内遺跡発掘調査の概要報告書である。

2．今回の発掘調査は、青の山古墳群のうち昨年墳丘測量調査を実施している青の山５号墳（青の山南支群２号墳）と田村・山北地区及び郡家地区を対象とした。

3．発掘調査及び本書の執筆・編集は、丸亀市教育委員会生涯学習部文化課主事東信男が担当した。

4．挿図の一部に国土地理院地形地図　丸亀（1/25,000）を使用した。図面の包囲はすべて、磁針方位で示した。また実測図の縮尺は、すべてスケールで表示した。

5．遺構や遺物の実測は、四国学院大学考古学研究会及び奈良大学の学生の協力を得た。

6．遺物については、片桐孝浩氏の助言を得た。

7．出土遺物及び図面は、丸亀市立資料館で保管している。

8．本書の執筆にあたっては、片桐孝浩氏、國木健司氏、笹川龍一氏、山本英之氏、山元敏裕氏、川端聰氏の助言・協力を得たので記して謝意を表する。

目　　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯……1

第Ⅱ章　青の山５号墳（墳丘確認調査）
　１．立地と環境……1
　２．調査の経過……3
　３．調査の結果……3
　　(1)墳丘……3
　　(2)石室……7
　　(3)遺物……7
　４．まとめ……8

第Ⅲ章　田村・柞原地区
　１．立地と環境……10
　２．調査の経過……10
　３．調査の結果……11
　　(1)基本土層……11
　　(2)遺構……11
　　(3)遺物……11
　４．まとめ……11

第Ⅳ章　郡家地区
　１．立地と環境……12
　２．調査の経過……13
　３．調査の結果……13
　　(1)基本土層……13
　　(2)遺構……14
　　(3)遺物……14
　４．まとめ……15

第Ⅴ章　まとめ……15

挿図目次

第１図　周辺の遺跡地図……2
第２図　青の山５号墳平面図……4
第３図　青の山５号墳土層断面図（第１～第５トレンチ）……5～6
第４図　西側側壁石実測図……7
第５図　土器観察表……8
第６図　遺物実測図（第３トレンチ出土）……9
第７図　柞原地区調査区地図……10
第８図　柞原地区調査区平面図及び土層断面図……11
第９図　郡家地区調査区地図……12
第10図　郡家地区調査区平面図及び土層断面図……13
第11図　東側溝(SD01)と西側溝(SD02)土層断面図……14
第12図　遺物実測図……14

図版目次

青の山５号古墳
写真１　調査前……16
写真２　トレンチ調査状況……16
写真３　作業状況……16
写真４　調査区全景……16
写真５　天井石検出状況……16
写真６　天井石及び東側壁石……16
写真７　第１トレンチ全景（北から）……16
写真８　第２トレンチ全景（東から）……16
写真９　第３トレンチ全景（遺物出土状況）…17
写真10　西側壁石（羨道部）……17
写真11　調査完了……17
柞原地区
写真12　調査前……17
写真13　重機掘削……17
写真14　西壁土層断面……17
写真15　小穴（ピット）検出状況……17
写真16　調査区全景……18
写真17　調査完了……18
郡家地区
写真18　調査前……18
写真19　調査区全景（西から）……18
写真20　溝(SD01)……18
写真21　溝(SD02)……19
写真22　溝(SD02)土層断面……19
写真23　須恵器①②……19
写真24　須恵器①②……19
写真25　土師器④……19
写真26　土師器⑤……19
写真27　須恵器③……19
写真28　土師器坏⑥……20
写真29　黒色土器⑦……20
写真30　郡家地区出土遺物……20
写真31　須恵器片⑧……20

第Ⅰ章　調査に至る経緯

平成５年度丸亀市内遺跡発掘調査事業は、平成４年度からの同調査事業を継続したもので、丸亀市内遺跡発掘調査事業を継続し、市内の重要遺跡の確認調査を実施した。主な調査対象地区は、弥生時代の中の池遺跡が確認されている金倉地区、古墳時代の青の山古墳群、古代・中世遺跡の郡衙跡地と推定される郡家地区と重要遺跡の展開が推定される田村・柞原・垂水地区を予定しており、今年度の調査は、青の山古墳群、田村・柞原地区、郡家地区を対象とした。

青の山古墳群については、丸亀市土器町東四丁目89番地の青の山５号墳（南支群２号墳。「以下青の山５号墳」という。）を調査の対象とした。この古墳は、前年度に墳丘測量調査を実施し、今年度は文化財保護法（以下「保護法」という。）98条の２の発掘届出書を県文化行政課に提出し、墳丘の確認調査を実施した。

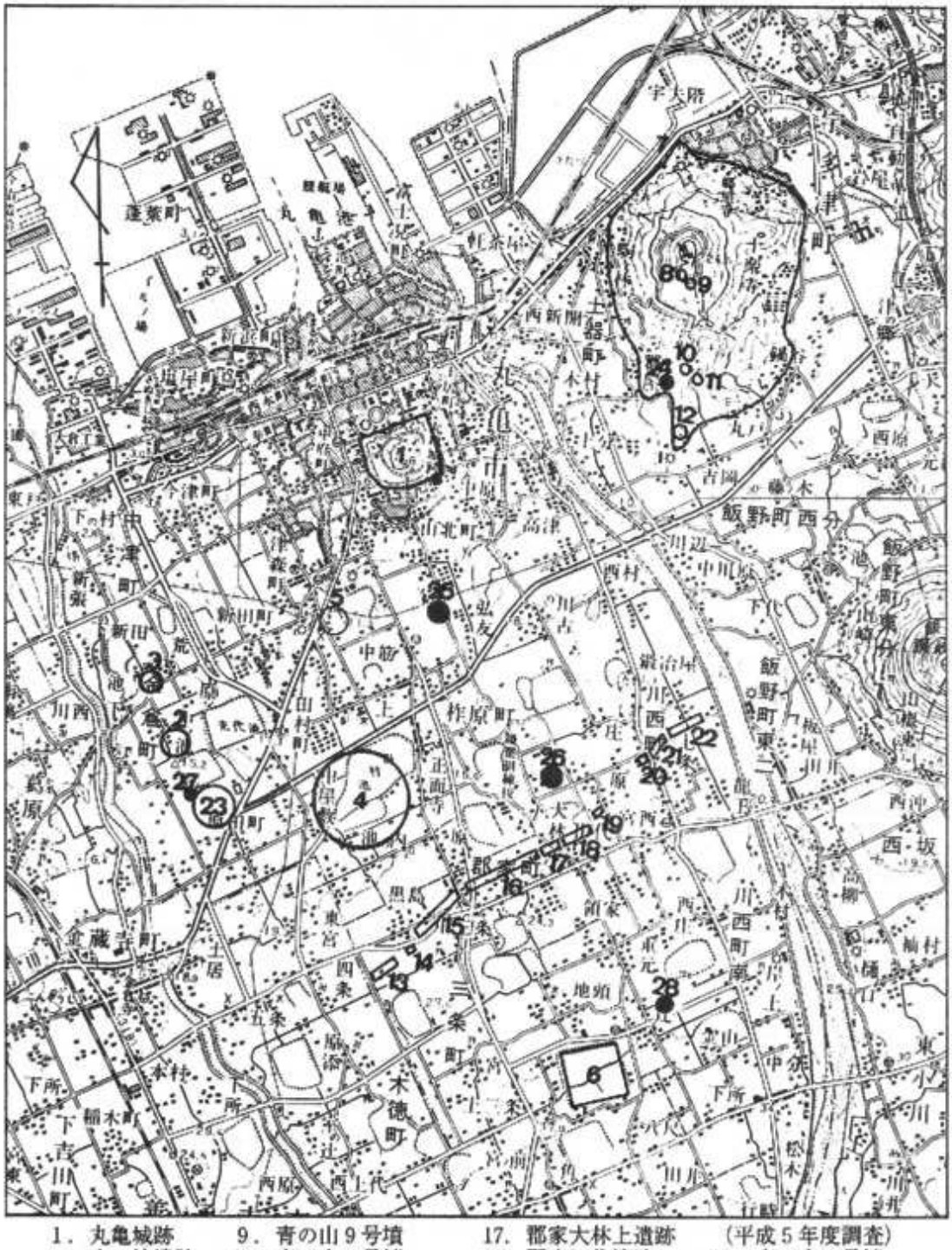
田村・柞原地区については、今後道路拡張工事など開発工事の増加が見込まれることから、柞原町 769番地の１の市有地を保護法98条の２の発掘届出書を県文化行政課に提出し、試掘調査を実施した。

郡家地区については、昭和63年度から平成２年度にかけて、財団法人香川県埋蔵文化財センターにより郡家原、郡家一里屋、郡家大林上、郡家田代遺跡等の発掘調査が実施されており、その周辺部にも遺跡が展開すると予想されることから、保護法98条の２の発掘調査届出書を県文化行政課に提出し、郡家町3690番地の市有地で試掘調査を実施した。

第Ⅱ章　青の山５号墳（墳丘確認調査）

１．立地と環境

丸亀平野は香川県のほぼ中央部にあり、その東部に青の山はある。青の山は標高 224.5ｍの独立峰で丸亀市と宇多津町の境界になっている。南麓は傾斜が緩く、尾根は南東と西南に派生し、丸亀側の西南尾根筋はさらに二分し、その一つは真南に延び、先端部には吉岡神社前方後円墳がある。この青の山には、横穴石室を持った古墳時代後期から末期の古墳が現在約23基確認されている。丸亀市教育委員会により、６世紀後半から７世紀前期の片袖の横穴石室を持つ青の山６号墳、径25ｍ前後の墳丘を持つ両袖の横穴石室で巨石を用いた７号墳（竜塚と呼ばれたが消滅）、６世紀後半の片袖の横穴石室を持つ円墳である８号墳、終末期の９号墳、県指定史跡となっている青の山１号窯跡があり、それぞれ調査されている。



1．丸亀城跡
2．中の池遺跡
3．道下遺跡
4．田村池遺跡
5．田村廃寺
6．宝幢寺遺跡
7．青の山古墳群
8．青の山８号墳
9．青の山９号墳
10．青の山６号墳
11．青の山１号窯跡
12．吉岡神社前方後円墳
13．三条番ノ原遺跡
14．三条黒島遺跡
15．郡家原遺跡
16．郡家一里屋遺跡
17．郡家大林上遺跡
18．郡家田代遺跡
19．川西北原遺跡
20．川西北七条Ⅰ遺跡
21．川西北七条Ⅱ遺跡
22．川西北鍛冶屋遺跡
23．金倉・原田埋蔵文化財包蔵地
（平成５年度調査）
24．青の山５号墳
25．柞原地区
26．郡家地区
（平成４年度調査）
27．金倉平池南地区
28．郡家辻地区

第１図　周　辺　の　遺　跡　地　図　（1/25,000）

今年度の調査対象となった青の山５号墳は、西南の尾根筋が二分するところにある未調査の横穴石室である。

土地の古老の話によると、本墳の所在する当地は現在山腹の付け根になっているが、本来の尾根筋は本墳から南へ派生していたもので、陸軍の射撃場の建設により、削平されたらしい。また、石室後方の急峻な斜面傾斜は射撃場から発砲される玉避けのために地元の有志により盛土されたものであることが判った。これらのことから、本墳は当初尾根筋に立地する古墳であったと推定される。

２．調査の経過

今年度の調査対象となった青の山５号墳は、青の山南支群の中腹に位置し、横穴石室が露呈しているものである。平成３年度の老人介護ホームの建設により、古墳の近辺に舗装路が敷設され、未調査の本墳が放置されることは、盗掘の危険性があり、文化財の保護上好ましい状態にあるとはいえない。そこで、市としても当墳の保存、保護を検討するため基礎資料収集を目的として調査をした。平成４年度に墳丘の測量調査をし、本年度は前年度からの事業を継続し、墳丘の確認調査をする運びとなった。

平成５年２月２日に古墳と周辺の樹木を伐採し、翌日から露呈している安山岩の天井石を中心に東西と南北で十字トレンチを設定し、人力による掘削をした。

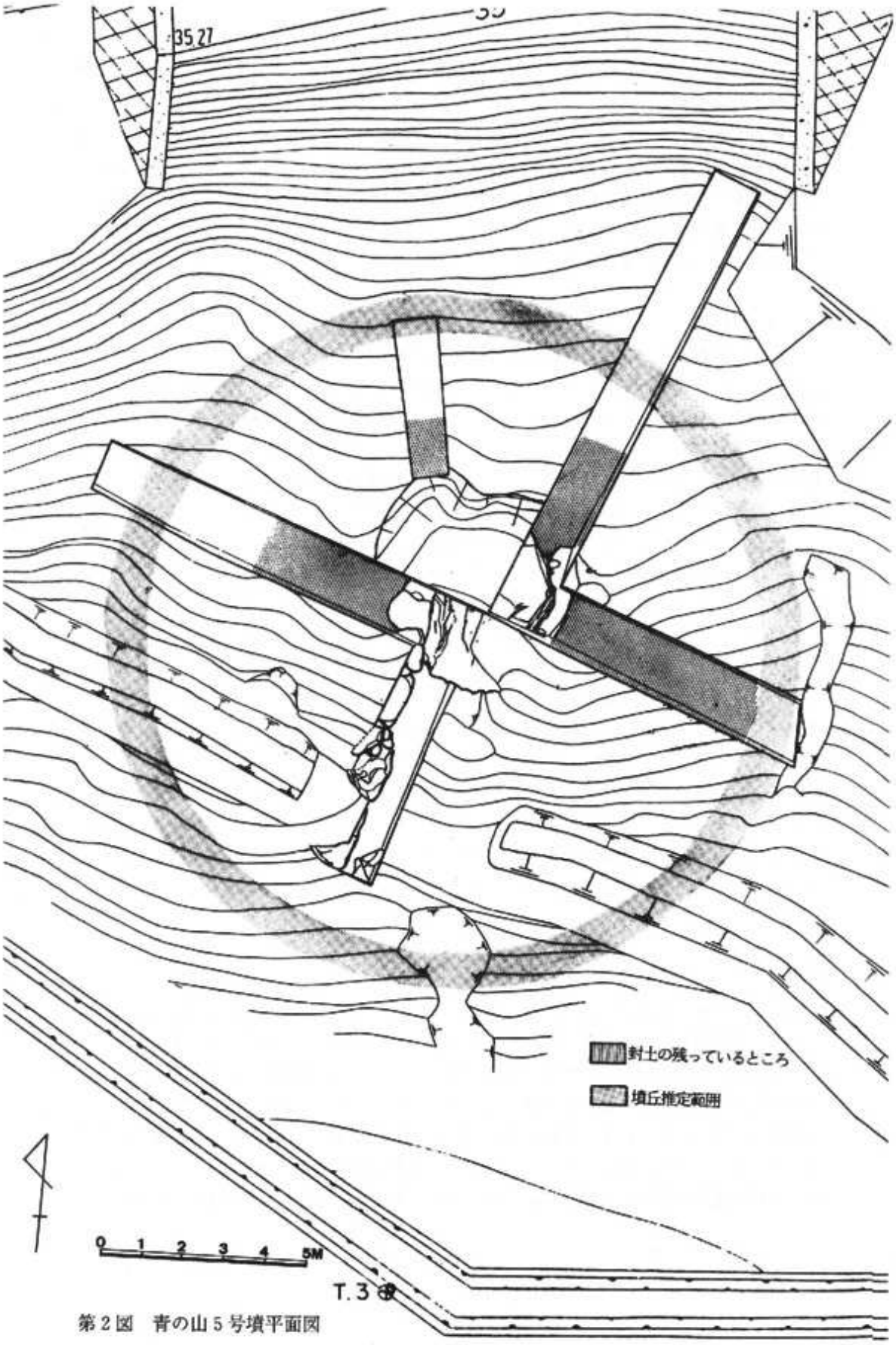
十字トレンチの北側から第１トレンチ、東側を第２トレンチ、南側を第３トレンチ、西側を第４トレンチ、第１トレンチと第４トレンチの間に第５トレンチを設定した。第１トレンチは幅２ｍ、長さ12mで石室後方の墳丘の確認をした。第２トレンチ幅２ｍ、長さ８ｍで石室東側の墳丘の確認をした。第３トレンチは幅２ｍ、長さ６ｍで石室内の羨道部の調査をした。第４トレンチは幅２ｍ、長さ 9.5mで石室西側の墳丘の確認をした。第５トレンチでは幅 1.5m、長さ 3.7mで墳丘の確認を目的に設定した。

第１トレンチで石室主体部の裏側の封土状況を確認した。第２トレンチと第４トレンチで石室の側壁石と封土の状況を確認した。第３トレンチで羨道西側壁石を検出し、羨道部入口からは炭を包含する層を検出した。羨道に関しては床面まで掘削せず、次回の調査に持ち越した。３月３日に全てのトレンチの埋め戻しを完了し、調査を終了した。

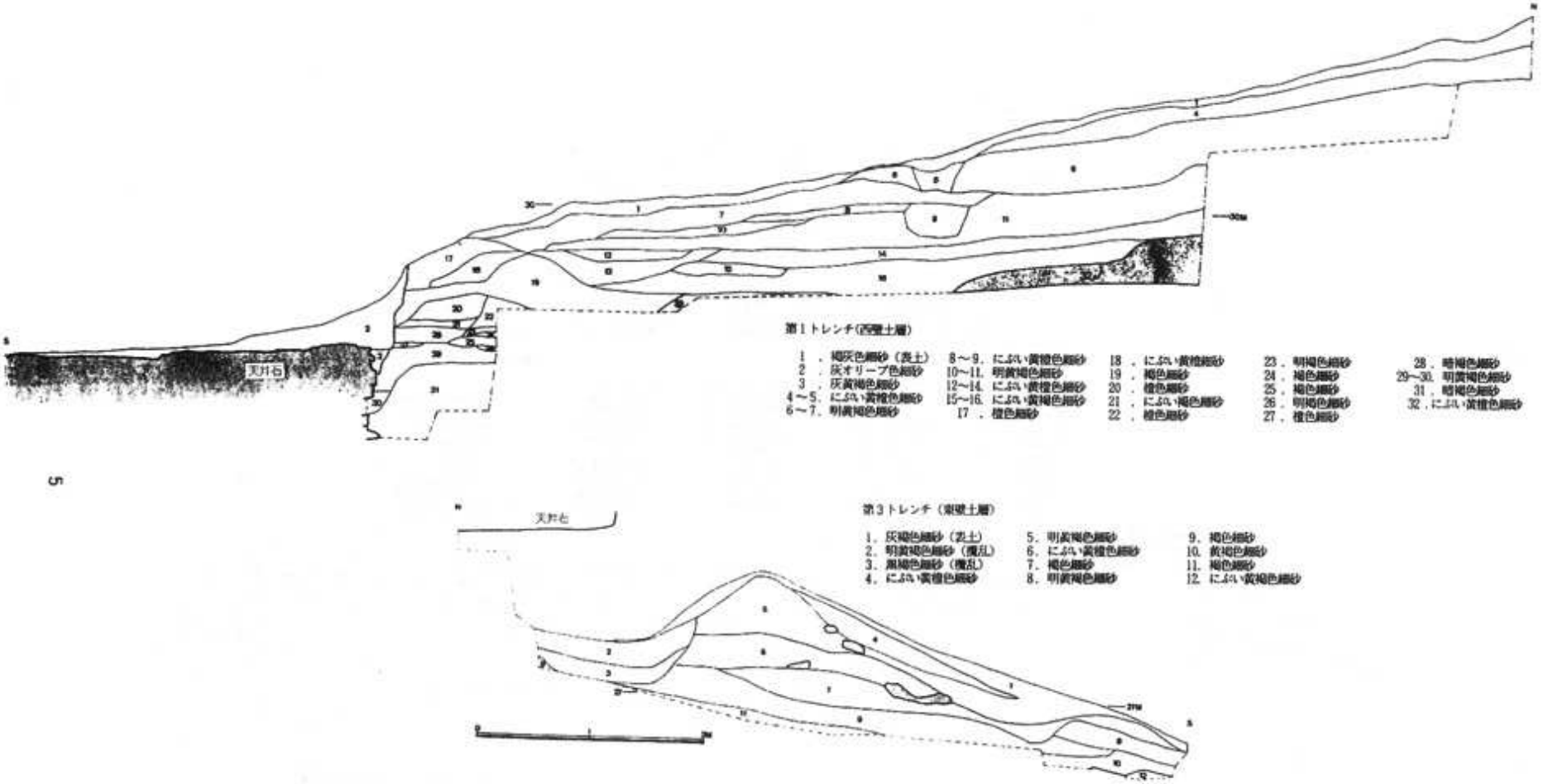
３．調査の結果

(1)墳丘

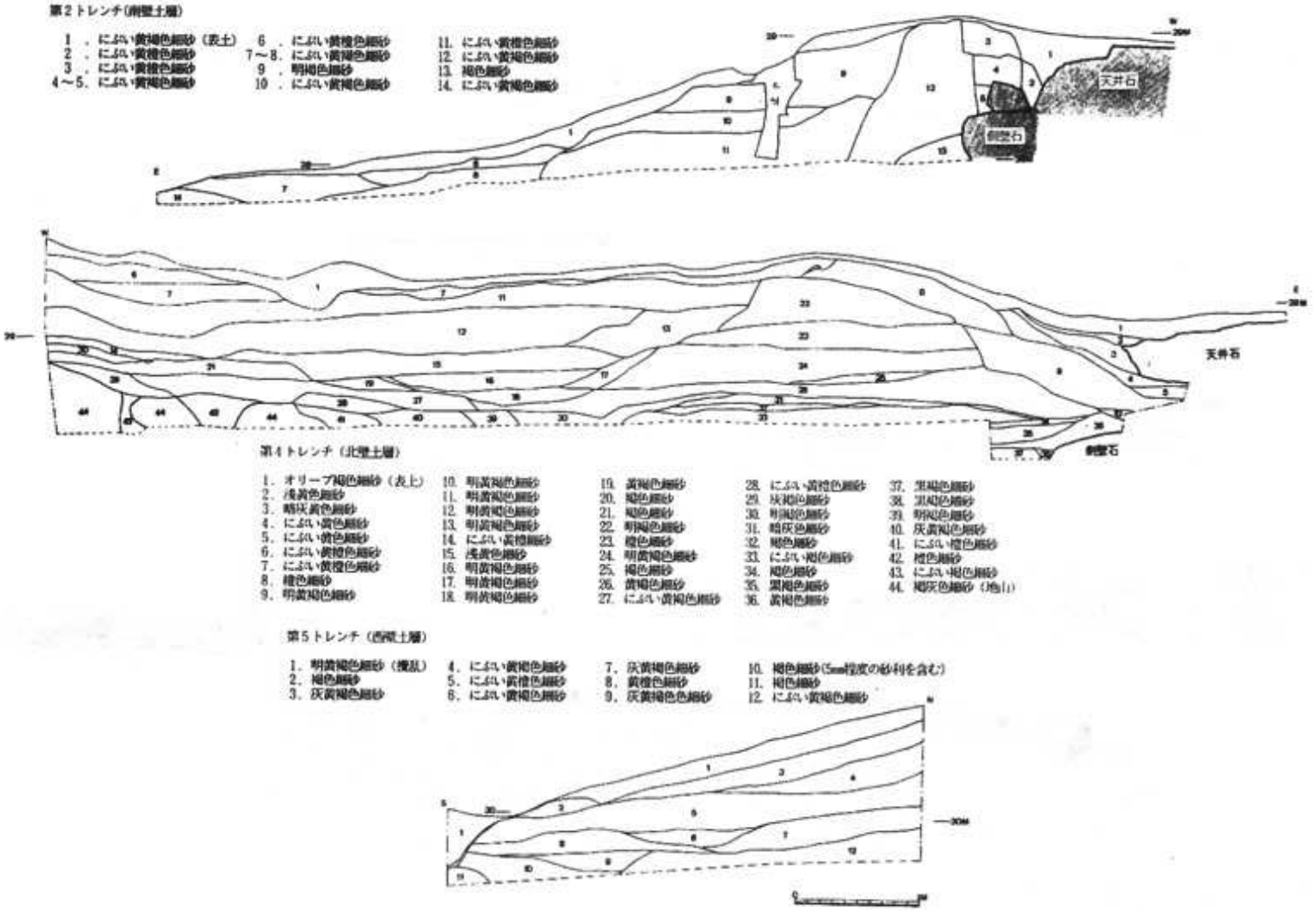
本墳は調査前の状況で、安山岩の天井石が部分的に露出し、石室主体部も露呈していた。このことから南に開口する横穴石室をもつ古墳であることが知られていた。第１・２・４トレンチで、石室周囲の土層序をみると、第１トレンチ（古墳北側）では、地山を削り込み黄褐色細砂で突き固め墳丘を形成している。第２トレンチ（東側）は、古墳の封土で、天井石の中央から約２ｍまで黄褐色細砂で石室主体部を補強してから、墳丘の裾部まで平行土層となっている。第４トレンチ（西側）では調査西端で地山が検出され、第１トレンチと同様に地山を削り、黄褐色・褐色細砂が平行土層となり、墳丘を形成している。



第2図　青の山5号墳平面図



第3図　青の山5号墳土層断面図



第3図　青の山5号墳土層断面図

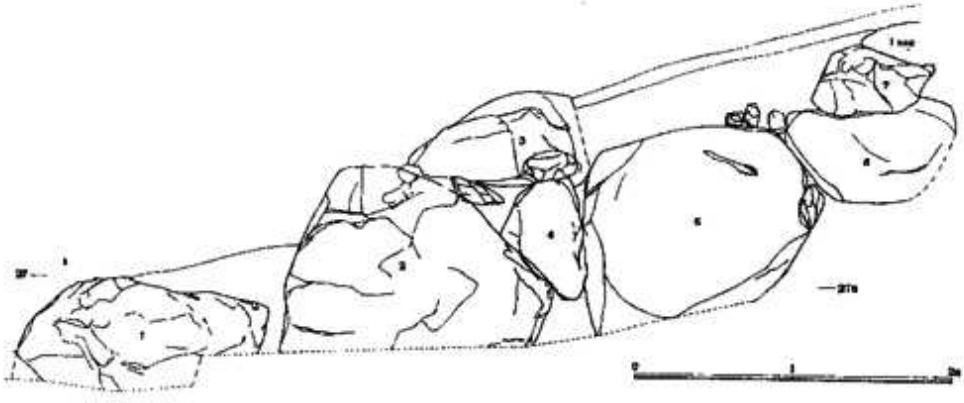
また安山岩の天井石は現在半分程度埋土しているが、以前には上部全体が露出していた形跡がある。とくに第４トレンチ（西側）では、天井石の下部まで後世の掘削があり、石室主体部の封土は攪乱を受けている。墳丘上部の封土も同様に掘削をうけ流失している。

第１トレンチで、天井石北側端部から約 4.7mのところで、地山を掘削している箇所があった。第２トレンチは古墳の封土がそのまま傾斜して地山に至り、墳丘は攪乱を受けているが天井石東端から約 6.2mのところで地山を検出した。第４トレンチでは、墳丘が掘削を受け封土が流失しており、天井石西端から約 7.9mで地山の掘削を確認した。第３トレンチ（南側）では羨道部西壁石を検出した。

本墳は地山掘削の場所をもとに墳丘の規模を推定すると約14～16m程度の円墳である。

(2)石室

石室主体部は地山を削り出し築造されており、褐色・黄褐色粘質土の封土で補強されている。石室に使用されている石材は安山岩と花崗岩の両方を使用している。天井石は安山岩で長さ約４m、幅約 2.5m、高さ約 0.4mある。石室主体部のうち今年度は羨道西側の側壁石の調査にとどめ、玄室内の調査は実施していない。羨道の調査は第３トレンチ（南側）で実施した。今回の調査では羨道床面まで掘り下げはしなかった。羨道入口から玄室に向かって、７つの側壁石を検出した。入口部から順に述べると、①長さ約 1.5m、高さ70cm以上の花崗岩、②長さ約 1.7m、高さ 1.1m以上の花崗岩、③長さ約 1.1m、高さ約60cmの花崗岩、④長さ約50cm、高さ約75cmの花崗岩、⑤長さ約 1.5m、高さ約 1.2mの花崗岩、⑥長さ約1.05m、高さ約65cmの花崗岩、⑦長さ約75cm、高さ約43cmの安山岩である。



第４図　西側側壁石実側図

(3)遺物

出土遺物は小片も含めて２０数点程度であり、羨道部と北側第１トレンチから出土した。北側第１トレンチ出土遺物は小片で、墳丘が掘削をうけたとき混入した遺物である。ここ

では第３トレンチの側壁石の調査にて出土したものをとりあげる。

出土遺物は須恵器片、土師器の坏と小皿・黒色土器等である。須恵器は甕の頸部や体部の破片が出土し、体部の破片は３点出土しており、外面が平行タタキ目で内面が同心円タタキ目のもの①と外面が格子目で内面が同心円タタキ目のもの②がある。甕③は頸部に竪方向の櫛描き文があり、この櫛描き文の中央と下部二箇所に二条の沈線が巡る。体部内側に同心円文の当て痕があり、体部外面には自然釉がかかる。

土師器は口縁部の破片と中世の小皿と坏が出土している。口縁部の破片④は外面に竪ハケがある。小皿⑤は底部がへら切り、体部が内彎気味に上方へ伸び、口縁は外反させている。土師器の坏⑥は底部がへら切りで、体部は直線的に外上方に延びている。黒色土器⑦は内外面に炭素を吸着させたＢ類碗で底部に外反する高台がつき、内面は４分割へら磨きが施されている。なお、詳細は表に示したとおりである。

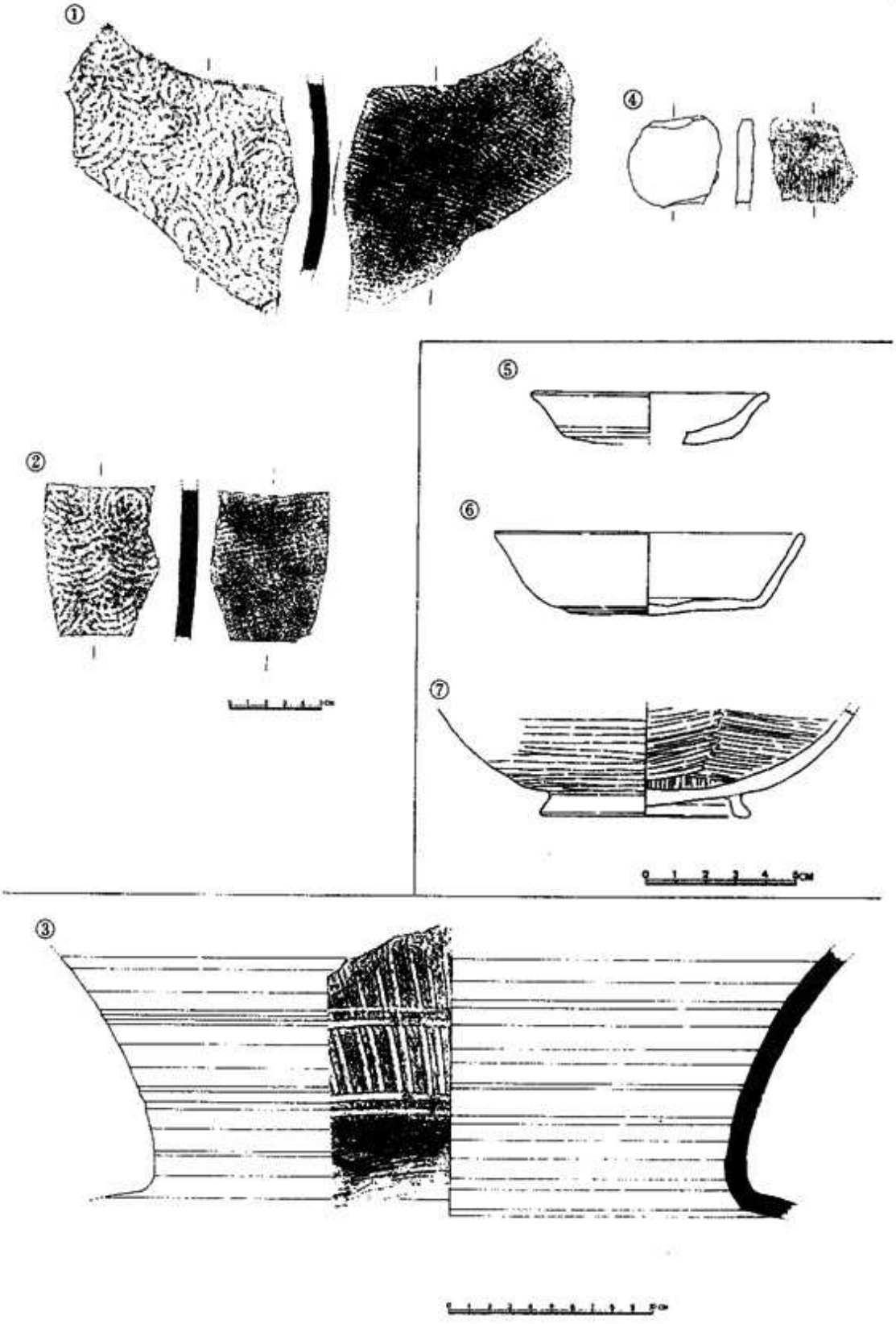
番号	器種	法量（cm）			胎土	焼成	色調	備考
		口径	器高	底径				
③	須恵器 甕	－	－	－	１mm以下の砂粒を含む	良好	外側　灰色 内側　淡灰色	頸部櫛描き文二条の沈線 断面セピア色口唇部横ナデ
④	土師器	－	－	－	0.5mm程度の微砂粒を含む	良	外面　赤褐色 内面　淡褐色	櫛描き 体部外縁竪ハケ
⑤	土師器 小皿	－	－	－	微砂粒含	良	外面　黒色 内面　淡褐色	口縁横なで 底部ヘラきり
⑥	土師器 坏(C)	10.3	2.75	6.5	精良微砂粒含	良	淡褐黄色	口縁横なで 底部ヘラきり
⑦	黒色土器 碗(B)	－	－	－	細砂粒を少量含む	良好	黒色	内面４分割 ヘラ磨き

第５図　土器観察表

４．まとめ

本墳は今回の調査により墳丘の規模が確認され、主体部石室も大型であることが確認された。墳丘は約14～16m程度で、消失した竜塚古墳に比べ小規模であるが、石室主体部に用いている石は竜塚古墳より大きく、現在青の山古墳のなかで確認されているもののなかでは群を抜いて大きいこと、竜塚古墳に近いことから、竜塚古墳の系譜をひくものであると推測される。主体部は地山を削り出して石室を構築して、褐色・黄褐色の粘質土で石室周囲を補強して墳丘を形成している。西側と東側では墳丘の封土の流失があり、羨道部は農道が横切り所々に破壊をうけ、羨道部の石も一部撤去されている。

出土遺物は須恵器の甕が出土した。また10世紀後半の土師器の坏や黒色土器、11世紀の土師器の小皿が出土している。羨道入口では炭を検出し、同層から土師器の小皿が出土していることから、後世に再利用されていると思われる。



第6図　遺物実測図（第3トレンチ出土）

第Ⅲ章　田村・柞原地区

1．立地と環境

田村池の西半分及び周辺部は弥生から古代の遺跡が推定されており、柞原町西村にも遺物包含地がある。

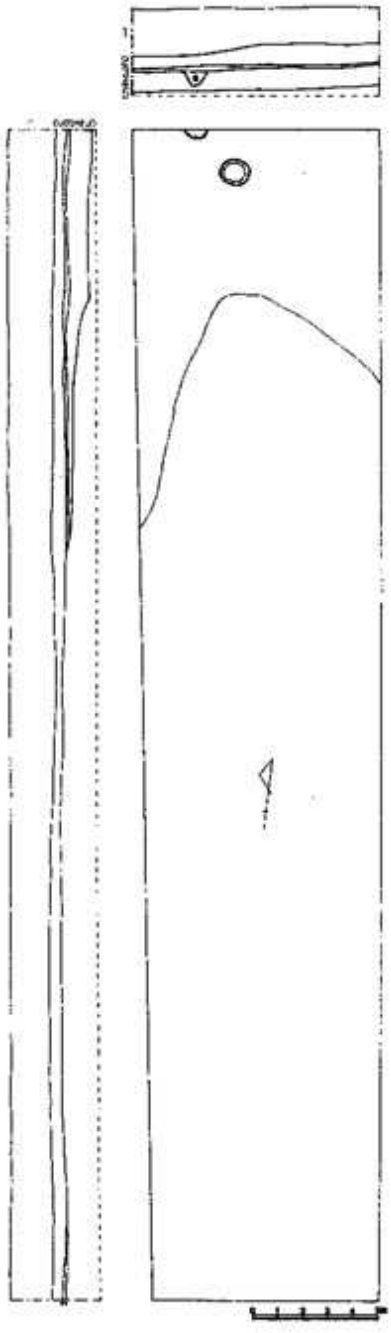
奈良時代になり、田村町は寺院跡である田村廃寺があった。寺跡は現在開墾され水田となっているが、「蓮池」「塔のもと」「塔の前」「ゴンゴン堂」と言う地名が残っており、番神社には塔の礎石と伝えられる手水ばちがある。番神社と蓮池の間を流れている用水路から田村廃寺のものと推定される十葉素弁蓮華文軒丸瓦や丸亀市立資料館に田村廃寺出土といわれる丸瓦（行基瓦）が保管されている。

弘安年間(1278 ～1287) に秋山泰忠が当地に入封し、田村廃寺の跡地に法華寺久遠院を建立したと伝えられ、田村町字池田の天神馬場の東に秋山屋敷という古井戸のあるところがあり、秋山氏の居館址（田村城）であると伝えられている。

第７図　柞原地区調査区地図

2．調査の経過

平成６年３月３日に調査対象地内に、２ｍ×10ｍの南北に延びるトレンチを設定した。造成地のために、埋め戻し時に真砂土を元に返す必要があり、重機掘削による表土掘削をし、耕作土を検出してから、土層序の変化するところまで重機による掘削を行った。人力による土層断面の清掃、平面の精査をおこない、写真撮影終了後再び次の土層序の変化まで重機による掘削、清掃、精査、写真撮影を繰り返した。第４層黄褐色細砂層の検出により、遺構の検出が望まれないことから、掘り下げを断念し、重機による埋め戻しを行い、３月４日に調査を終了した。



土層序（北壁・西壁）
第１層　真砂土（造成土）
第２層　耕作土
第３層　床土
第４層　にぶい黄橙色シルト
（２～15cm程度の礫含む）
第５層　黄褐色細砂

第８図　柞原地区調査区平面図及び土層断面図

３．調査の結果

(1)基本土層

第１層真砂土（造成土）、第２層耕作土、第３層床土、第４層にぶい黄橙色シルト層、第５層黄褐色細砂層（２～15程度の礫を含む）の堆積となり、第３層直下が地山となる。

(2)遺構

第４層上面が遺構面となり、第４層を掘り込んだ近世頃のピットを２つ検出した。その他の遺構は検出されなかった。

(3)遺物

近世の陶磁器片が数点出土した。

４．まとめ

調査対象地から南西方向に約 500mの地点で、須恵器片等の遺物包含地があることから、中世以前の遺構検出が期待されたが、近世頃のピットを２つ検出しただけで、残念ながら周辺部で採集されていた同時代の遺物や遺構の存在はなかった。

当地は近世になって丸亀城がここから北へ約1.4kmの場所に築城されているが、ここは農地として使用され、現在に至っている。

第Ⅳ章　郡家地区

1．立地と環境

郡家地区は丸亀平野のほぼ中央部に位置し、郡家、領家、重元等の当時の荘園領主を表す地名が残り、条里制の那珂郡三条から町名に変化した三条町もある。条里も比較的よく残っており、白鳳時代の古瓦が出土する宝幢寺跡や郡衙跡地の存在も推定される。郡家地区の調査は昭和63年度から財団法人香川県埋蔵文化財センターにより実施されており、主な遺跡は弥生時代後期後半の竪穴住居跡を含む集落跡及び奈良時代から平安時代の集落跡で齋串・墨書土器・緑釉等の遺物が出土している郡家原遺跡、縄文時代草創期に属する有舌尖頭器及び奈良時代から平安時代にかけての集落跡や齋串・墨書土器・緑釉等の遺物が出土している郡家一里屋遺跡、ナイフ形石器及び弥生時代の遺構が確認された郡家田代遺跡、自然河川跡から齋串が出土した郡家大林上遺跡があり、これらの遺跡からは条里に関連する溝状遺構が確認され、とくに郡家原遺跡や郡家番ノ原遺跡については平安時代前半に埋没したことが明らかな溝状遺構も確認されている。

郡家地区は年々新興住宅地に変わりつつあり、田園風景が失われつつある。那珂郡の中心地として機能していた当地は複合する時代の遺跡が存在することから、重要な遺跡の展開する地区として総合的な調査を実施する必要がある。

第９図　郡家地区調査区地図

2．調査の経過

平成６年３月４日に調査対象地にフェンス等の資材搬入及び調査範囲を設定した。調査地は南北２ｍ×東西40ｍのトレンチで、３月７日から重機による掘削を開始した。学校菜園として使用しているため上部の掘削土は土層別に分類して除去した。

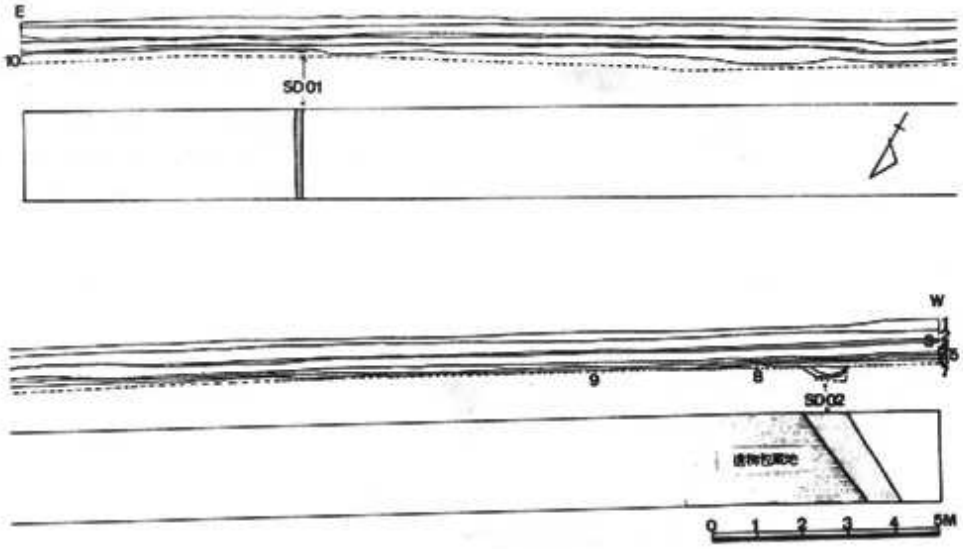
重機による掘削は土層序の変化するところで一端中止し、層位の確認をしたうえで、人力による断面土層の清掃、平面の精査をして遺構の確認をした。同様の方法を繰り返し、地山まで掘削をした。地山は東が高く、西へいくほどレベルを下げている。遺構は東側と西端で溝を各１つ、計２本検出した。遺物の出土は東側で須恵器片と土師器片が数点出土したが溝に伴う遺物の出土はなかった。西側は溝の東側で須恵器や土師器片が20点ほど出土している。

西端で検出された溝の大きさを確認をするためにトレンチを約１メートル西へ延長した。この溝の大きさを確認した後、掘削作業を終了した。平成６年３月11日から後片づけ及び重機による埋め戻しを開始した。埋め戻しは、地下水の沸き出しがあり、土が湿っていることから十分に乾燥させ、トラクター等の車両が落ち込むことのないように日数をかけ埋め戻しを行い、調査を完了した。

3．調査の結果

(1)基本土層

第１層耕作土、第２層真砂土（造成土）、第３層黒褐色粘質土（耕作土）、第４層灰褐色粘質土（耕作土）、第５層灰褐色シルト、６層褐灰色シルト、第７層灰褐色粘質土、第８層褐灰色シルト、第９層にぶい黄橙色粘質土、第10層灰黄褐色細砂である。



第10図　郡家地区調査区平面図及び土層断面図

(2)遺構について

東側(SD01)と西側(SD02)で溝状遺構を検出した。SD01は南北溝で、幅38cm、深さ4cmで浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色粘土の単一層であり、遺物の混入はなかった。

SD02は南北溝で、中近世包含層を除去して検出された。幅 104cm、深さ26cmで断面は皿形である。埋土は上層が褐色粘質土で下層が褐色細砂質粘土である。地山を削り込んでおり、埋土の上層から須恵器片が出土している。

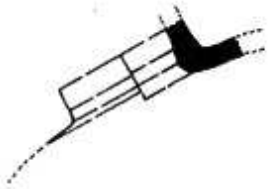
第11図　東側溝(SD01)と西側溝(SD02)土層断面図

(3)遺物について

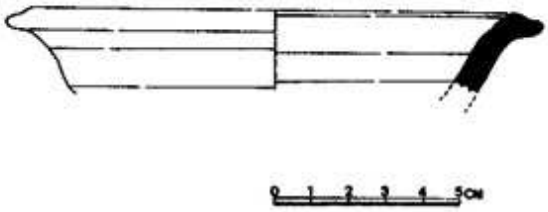
出土遺物は、中近世陶器、須恵器、土師器片でいずれも小片であるが、SD02の東側で出土した2点の須恵器を取り上げる。須恵器片⑧は第7層灰褐色粘質土層から出土し、瓶であると思われる。焼成は良好で色調は灰色である。

須恵器片⑨も第7層灰褐色粘質土層から出土した。須恵器の口縁部である。焼成は良く、色調は内側が灰色で外側は淡灰色、口縁は端部で外反し、口唇一状の凹線が走る。

⑧



⑨



第12図　遺物実測図

4．まとめ

第８層はSD02の東側肩から東側へ2.5 mの所で西に向かって地山の上に堆積している。SD02は第８層の上位にあり、SD02が埋土した後に第７層が堆積している。第７層はSD02の東側肩部から東へ約90cmのところで西に向かって堆積しており、遺物を包含している。第６層から上層は調査区全域に堆積している土層である。このことから当時の地山は東側で高く、西側で低いことが確認された。

今回の調査でSD01については時代の指標となる遺物の出土がなく時期は不明であるが、SD02については上部の第７層から須恵器の甕の破片が出土していることから、中世以前の可能性が高いと思われる。これらのことから、今後の周辺部の調査に期待が寄せられる。

第Ⅴ章　まとめ

今回の調査の結果、青の山５号墳の墳丘確認調査では、遺物で時代の特定できるものの出土はないが、古墳時代後期の大型石室をもつ古墳であることが確認された。本墳の青の山古墳群の中での位置付けが推測できる貴重な資料が得られ、今後の主体部の調査に期待がもたれる。また、羨道部入口で焼けた花崗岩や炭が検出され、同層の埋土から10世紀後半から11世紀の土師器の小皿や黒色土器が出土した。羨道部の調査では古墳の埋葬に伴う遺物でなく、中世の生活に伴う遺物が出土している。

本墳が中世以降に本来の埋葬と違った目的で再利用されており、他の青の山に所在する古墳にもそのような例があるか期待がもたれる。

田村・柞原地区の調査では、遺物の出土は殆ど無く、遺構も近世頃のピットを２つ検出したのみであり、あまり成果は得られなかった。

郡家地区では溝２本を検出し、出土した遺物から西側の溝が中世以前のものと推定される。

参考文献

『新修　丸亀市史』　昭和54.6　丸亀市

『香川県埋蔵文化財調査年報』　昭和54　香川県教育委員会

『青の山８・９号墳発掘調査概報』1984.3　丸亀市教育委員会

『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12冊　郡家一里屋遺跡』1993.11
香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財センター・日本道路公団

『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13冊　郡家原遺跡』1993.11
香川県教育委員会・㈶香川県埋蔵文化財センター・日本道路公団

写　真

青の山5号古墳

① 調査前

②トレンチ調査状況

③ 作業状況

④ 調査区全景

⑤ 天井石検出状況

⑥ 天井石及び東側壁石

⑦ 第1トレンチ全景（北から）

⑧ 第2トレンチ全景（東から）

⑨ 第3トレンチ全景（遺物出土状況）

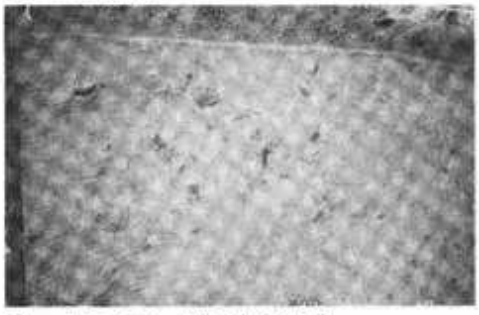
⑩ 西側壁石（羨道部）

⑪ 調査完了

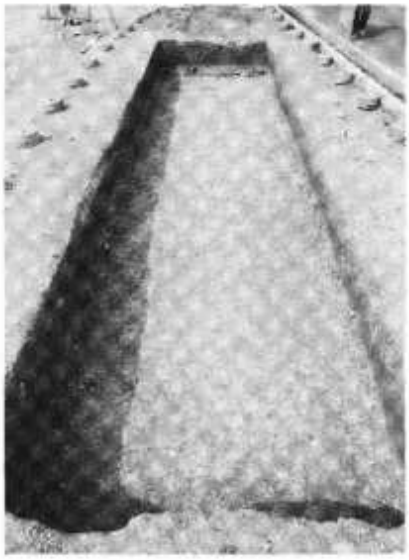
⑫ 調査前

⑬ 重機掘削

⑭ 西壁土層断面



⑮ 小穴（ピット）検出状況



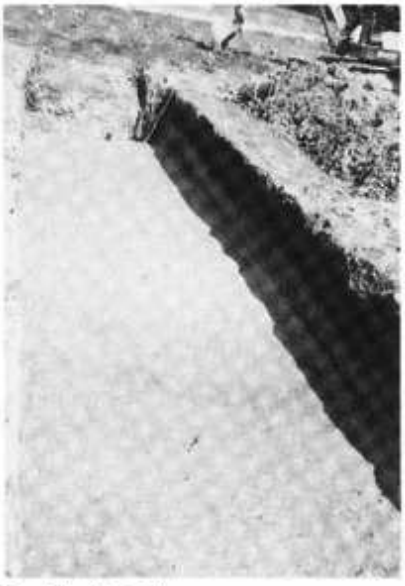
⑯ 調査区全景

⑰ 調査完了

郡家地区

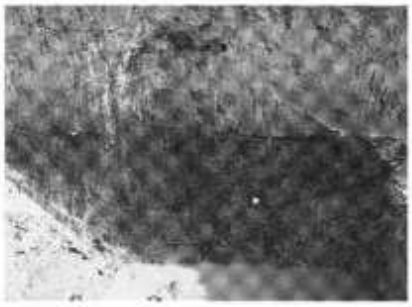
⑱ 調査前

⑲ 調査区全景（西から）

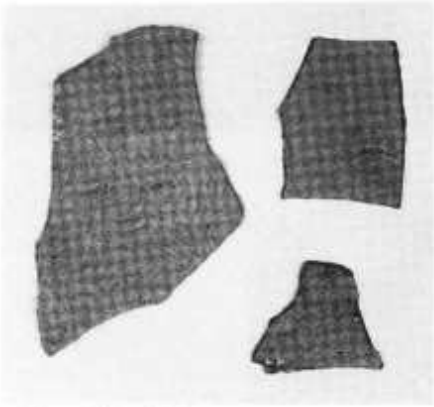


⑳ 溝（SD01）

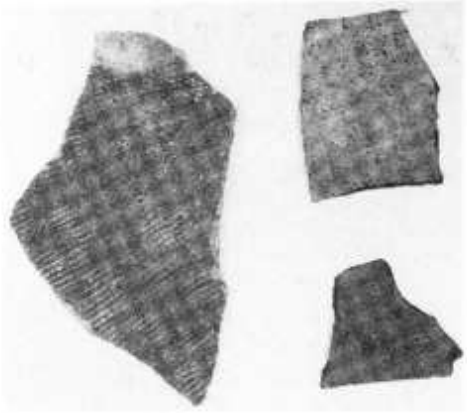
㉑ 溝（SD02）



㉒ 溝（SD02）土層断面



㉓ 須恵器①②

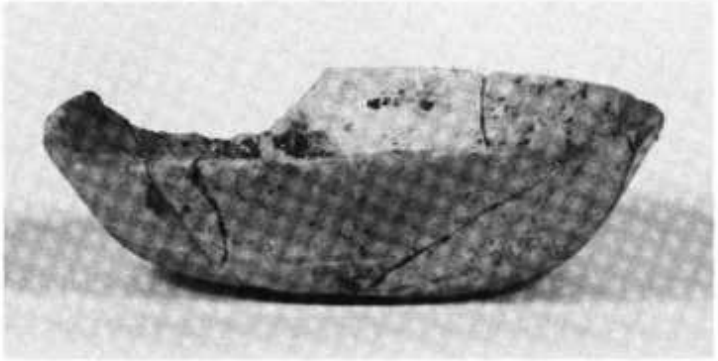


㉔ 須恵器①②

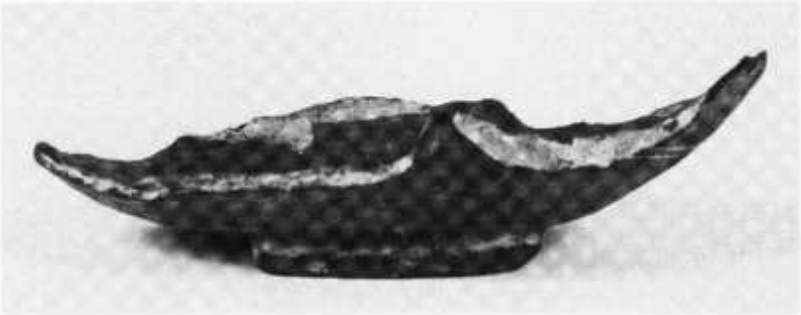
㉕ 土師器④

㉖ 土師器⑤

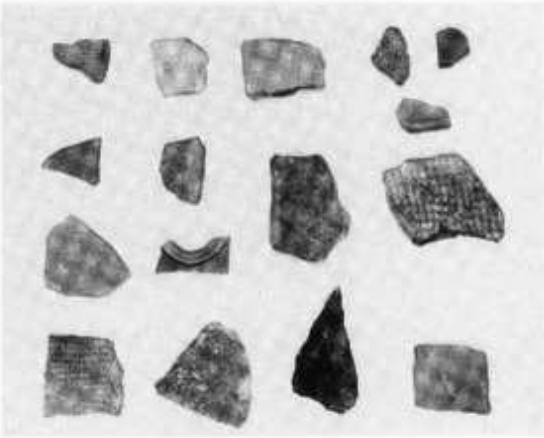
㉗ 須恵器③



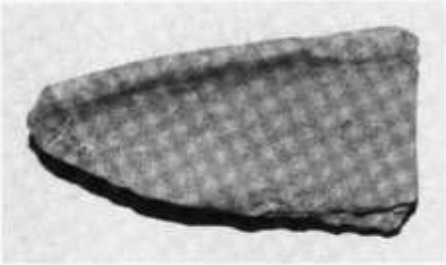
㉘ 土師器坏⑥



㉙ 黒色土器⑦



㉚ 郡家地区出土遺物



㉛ 須恵器片⑧

平成５年度
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成６年　３月発行

編　集　香川県丸亀市大手町二丁目三番一号
発　行　丸　亀　市　教　育　委　員　会

印　刷　㈱　四　国　工　業　写　真